

57 番の歌 あらゆる人に伝道する

イエスのように熱い気持ちで伝道する

「主イエスは.....行こうとしている全ての町と場所へ、先に2人ずつ遣わした」。ルカ 10:1

ポイント：熱い気持ちで伝道したイエスにどのように倣えるでしょうか。4つの方法を考えます。

1. エホバに仕える人たちは、一般のクリスチャンとどんな点で違っていますか。

エホバに仕える人たちは熱い気持ちで伝道しています。その姿勢は一般のクリスチャンとは大きく違っています。（テト 2:14 キリストは私たちのために自分を与えてくださいました。それは、私たちをあらゆる不法から自由にし(d*贖い/買い戻し)、自分の特別な所有物である民、立派な行いに励む(*熱心な)民を清めるためでした。）でも、熱い気持ちで伝道続けるのは簡単なことではありません。長老として忙しく奉仕しているある兄弟も、こう言っています。「時々、伝道のモチベーションが上がらないことがあります」。

2. 熱い心で伝道続けるのが簡単ではないのはどうしてですか。

2 伝道よりもほかのタイプの奉仕の方が楽しいと感じることがあるかもしれません。例えば、建設やメンテナンス、災害救援、兄弟姉妹を力づけることなどです。こうした奉仕はたいがい結果がすぐに見えるので、やりがいを感じやすいものです。和やかな雰囲気の中で優しい兄弟姉妹と一緒に働けますし、自分のしたことに感謝してもらえます。でも、伝道はそうはいきません。何年奉仕していてもなかなか成果が上がらないことがあります。きつい反応が返って来ることがあります。終わりが近づくにつれて、そういう反応はさらに増えていくでしょう。（マタ 10:22 そしてあなたたちは、私の名のために全ての人から憎まれますが、終わりまで耐え忍んだ人が救われます。）どうすれば熱い気持ちを冷まさず、伝道へのモチベーションを上げることができるでしょうか。

3. ルカ 13 章 6-9 節の例えからイエスのどんな気持ちが分かりますか。

3 イエスの手本から多くのことを学べます。イエスはいつも熱い心を持って伝道しました。その熱意はどんどん高まっていきました。（ルカ 13:6-9 イエスはさらにこの例えを話した。「ある人が、ブドウ園に1本のイチジクの木を持っていました。実があるかと見に行きましたが、見つかりませんでした。それでブドウの栽培人に言いました。『このイチジクの木に実があるかともう3年も見に来ていますが、一つも見つかりません。切り倒してしまいなさい！なぜ土地を無駄にしているのですか』。8 栽培人は答えました。『ご主人さま、あと1年そのままにしてください。周りを掘って肥やしをやりませう。9 この先、実を結ぶようであればそれでいいですし、そう

でなければ切り倒してください』」。を読む。) イエスは、栽培人が3年育てても実を結ばなかったイチジクの木について話したことがあります。イエスもすでに3年ほどユダヤ人に伝道していましたが、聞く人はわずかでした。この栽培人がイチジクの木のことを諦めなかったように、イエスも人々のことを諦めませんでした。宣教のペースを落としたりせず、ますます伝道に力を入れました。

4. この記事では、イエスの手本のどんな4つの面に注目しますか。

4 この記事では、特に亡くなる前の半年間、イエスがどんなふうに伝道に打ち込んだかを考えます。(ルカ 10:1 これらのことの後、主イエスはほかの70人を指名し、行こうとしている全ての町と場所へ、先に2人ずつ遣わした。の注釈「これらのことの後」の項目を参照?) イエスがどんなことを教え、何をしたのかに注目すると、熱い気持ちで伝道を続けるためのヒントがもらえます。4つの点に注目しましょう。(1) エホバが願っていることを一番大切にする、(2) 聖書の預言に強い関心を持つ、(3) エホバに頼る、(4) ポジティブな見方をする、ということです

エホバが願っていることを一番大切にする

5. イエスがエホバの願いを一番大切にしていたことは、どんなことから分かりますか。

5 イエスは熱い気持ちで「神の王国の良い知らせ」を広めました。(ルカ 4:43 しかしイエスは言った。「私はほかの町にも神の王国の良い知らせを広めなければなりません。そのために遣わされたからです。」) 神が願っている仕事だと分かっていたからです。イエスは伝道を一番大切にしていました。宣教期間が残り少なくなっても、「町から町へ、村から村へと」旅をし、人々を教えました。(ルカ 13:22 イエスは町から町へ、村から村へと旅をし、人々を教えながらエルサレムへの旅を続けた。) さらに、多くの弟子たちが伝道できるようにトレーニングしました。(ルカ 10:1 これらのことの後、主イエスはほかの70人を指名し、行こうとしている全ての町と場所へ、先に2人ずつ遣わした。)

6. 伝道はほかの奉仕とどのように関係していますか。(写真も参照。)

6 良い知らせを伝えるのは今も一番大切な仕事です。エホバとイエスは私たちが伝道することを願っています。(マタ 24:14 そして、王国の良い知らせは、全ての国の人々が聞けるように世界中で伝えられます。それから終わりが来ます; 28:19, 20) それで、行って、全ての国の人々を弟子としなさい。父と子と聖なる力の名によってバプテスマを施し、20 私が命令した事柄全てを守るように教えなさい。私は体制の終結までいつの日もあなたたちと共にいるのです。) ほかの奉仕も伝道と密接に関係しています。例えば、建設奉仕やベテル奉仕は伝道をサポートするためのものです。救援活動は、被災した兄弟姉妹を生活面で助けるだけではなく、伝道などクリスチャンの活動を早く再開できるようにすることを目的としています。エホバが何よりも伝道を大切にしたいと願っていることを考えると、ベストを尽くしたいという気持ちになります。ハンガリーの長老であるヤーノシュ兄弟はこう言っています。「ほかの奉仕をしていれば伝道しなくてもいい、と思わないようにしています。伝道は一番大切な仕事です」。



エホバとイエスは今も伝道を何よりも大切にしてほしいと思っている。(6節を参照。)

7. エホバが伝道を続けてほしいと願っているのはどうしてですか。 ([デモテ第一 2:3, 4](#))

7 エホバはできるだけ多くの人たちに良い知らせを聞いて受け入れてほしいと願っています。

([デモテ第一 2:3, 4](#) そのように祈ることは、私たちの救い主である神から見て良いことであり、受け入れられることです。4 神は、あらゆる人が救われて、真理の正確な知識を得ることを望んでいます。を読む。) エホバと同じ願いを持つなら、もっと熱い気持ちで伝道することができます。エホバは、命を救うメッセージを上手に伝えられるようトレーニングしてくれています。例えば、「愛を込めて弟子を育てる」の冊子には、会話を始めて聖書レッスンにつなげるのに役立つアドバイスが載せられています。たとえ今、良い知らせを受け入れない人でも、大患難が終わる前に気持ちが変わる可能性があります。私たちから以前聞いたことを思い出して、エホバに仕えたいと思うようになるかもしれません。でもそうなるかどうかは、私たちが諦めずに伝道を続けるかに懸かっています。

聖書の預言に強い関心を持つ

8. イエスが聖書の預言を知っていたことは、伝道への取り組みにどう影響しましたか。

8 イエスは聖書の預言が必ず実現することを知っていました。例えば、伝道できる期間は3年半しかないと分かっていました。([ダニ 9:26, 27](#) そして、62週の後にメシアは除かれ(*死刑にされ)ます。彼には何も残りません。やがて来る指導者に率いられた人々が、都市と聖なる場所を滅ぼし、洪水が終わりをもたらします。終わりまで戦争があり、荒廃が定められています。27 彼(c*メシアのことと考えられる)は多くの人のために1週の間契約の効力を保たせ、週の半ばに犠牲と供え物を終わらせます。そして、荒廃をもたらす者が、極めて不快なものの翼に乗って来ます。全てが滅びるまで、定められた事柄が、荒廃しているものの上に降り掛かります。) 自分がいつどのように死ぬかも知っていました。([ルカ 18:31-34](#) イエスは12人を脇に連れていき、こう言った。「さあ、私たちはエルサレムに上っていきます。人の子に関して預言者たちが書いた事柄は皆、成し遂げられます。32 例えば、人の子は異国の人々に引き渡され、あざけられ、ひどく扱われ、唾を掛けられます。33 そして、むち打たれてから殺されますが、3日目に生き返ります」。34 しかし、12人はこれらのことの意味が全くつかめなかった。これらの言葉の意味が彼らから隠

されていて、彼らは言われたことが理解できなかった。)それで、エホバから与えられた仕事をやり遂げるため、残されている時間を大切に、一生懸命伝道しました。

9. 聖書の預言について理解すると、伝道への取り組みにどんな影響がありますか。

9 聖書の預言についてじっくり考えると、一生懸命伝道しようという気持ちになります。私たちは今の世界がもうすぐ終わることを知っています。聖書は終わりの時代にどんなことが起き、どんな人が増えるのか予告していました。そして今、まさにその通りになっています。聖書は「終わりの時に」南の王と北の王が敵対することを預言しています。(ダニ 11:40 終わりの時に、南の王は彼と押し合い(*角を突き合わせ)ます。北の王は、兵車や騎手や多くの船で南の王を激しく攻撃し、国々に入って、洪水のように勢いよく通っていきます。)このことは今、英米がロシアとそれを支持する国々と敵対することによって実現しています。私たちはダニエル 2 章 43-45 節ご覧になったように、鉄が軟らかい粘土と交ざっていますから、強い部分が人々(*人の子孫/c 一般の人々のこと)と交ざることになります。しかし、鉄が粘土と結び付かないように、それらが一つになることはありません。44 この王たちの時代に、天の神は決して滅ぼされることのない王国を建てます。その王国はほかのどんな民にも渡されません。これらの王国を全て打ち砕いて終わらせ、その王国だけが永遠に存続します。45 山から 1 つの石が人手によらずに切り出され、鉄、銅、粘土、銀、金を打ち砕いたのを、あなたをご覧になった通りです。偉大な神が、将来起きる事柄を王に知らせました。この夢は真実であり、解き明かしも確かです。に出てくる像の足の部分が英米を表していることも理解しています。それで預言通り、もうすぐ神の王国が人間の政府全てを終わらせることを信じています。こうした預言を通して、私たちがどんな時代に生きているかが分かります。残っている時間が少ないことを考えると、もっと頑張って伝道したいという気持ちになります。

10. 聖書のどんな預言からも、伝道する力をもらえますか。

10 聖書の預言には、ぜひ伝えたい明るいメッセージも含まれています。ドミニカ共和国で奉仕するカリ姉妹はこう言っています。「エホバは素晴らしい将来を約束してくれています。今は悩みを抱えている人が多いので、その明るい将来についてみんなにもぜひ知ってほしいです」。また、聖書の預言を読むとエホバが伝道活動をサポートしてくれていることが分かり、諦めずに伝道する力がもらえます。ハンガリーに住むレイ姉妹はこう言っています。「イザヤ 11 章 6-9 節オオカミが子羊と共に過ごし、ヒョウが子ヤギと共に寝そべる。子牛とライオンと肥えた動物が皆一緒にいて(if*子牛とライオンと一緒に食べ)、小さな子供に導かれる。7 雌牛と熊と一緒に食べ、子牛と子熊も共に寝そべる。ライオンが雄牛のようにわらを食べる。8 乳児がコブラの巣の上で遊び、乳離れした子が毒蛇の巣穴の上に手を置く。9 私の聖なる山のどこにも、荒らしたり危害を加えたりするものはいない。水が海を覆っているように、エホバについての知識が必ず地上に満ちるからである。を読むと、今は良い知らせを受け入れそうにない人にも伝えようという意欲が湧いてきます。エホバが助けてくれればどんな人も変わるんです」。ザンビアのクリストファー兄弟はこう言います。「マルコ 13 章 10 節また、全ての国の人々の間で、良い知らせがまず伝えられなければなりません。の予告通り、良い知らせは世界中に広まっています。この預

言の実現に貢献できることを誇りに思います」。あなたは聖書のどんな預言から伝道続ける力をもらっていますか。

エホバに頼る

11. イエスが熱い気持ちで伝道続けるためにエホバに頼る必要があったのはどうしてですか。 (ルカ 12:49, 53)

11 イエスは熱い気持ちで伝道続けるためにエホバに頼りました。イエスは言葉を注意深く選んで話しました。それでも王国の良い知らせを聞いて怒る人や強く反対する人がいる、ということを知っていました。(ルカ 12:49 私は地上に火をおこすために来ました。そして、すでに火が付けられた以上、さらに願うべきことがあるでしょうか、53 分裂して、父が息子と、息子が父と対立し、母が娘と、娘が母と対立し、しゅうとめが嫁と、嫁がしゅうとめと対立します。を読む。) イエスは伝道したため、宗教指導者たちから何度も殺されそうになりました。(ヨハ 8:59 そこでユダヤ人たちは石を拾って、イエスに投げ付けようとした。しかしイエスは身を隠し、神殿から出ていった; 10:31 ユダヤ人たちはまたしても、石を拾ってイエスを石打ちにしようとした、39 そこでユダヤ人たちは再びイエスを捕まえようとしたが、イエスは彼らの手が届かない所へ逃れた。) そういう中でも伝道続けたのは、エホバと一緒にいてくれることを知っていたからです。こう言っています。「私は1人ではなく、私を遣わした父と一緒にい[ま]す。.....私を独りだけにはしませんでした。私は常に、その方が喜ぶことを行うからです」。(ヨハ 8:16 もし私が裁くとしても、正しく裁きます。私は1人ではなく、私を遣わした父と一緒にいるからです、29 そして、私を遣わした方は共にいてくださり、私を独りだけにはしませんでした。私は常に、その方が喜ぶことを行うからです。)

12. イエスは弟子たちが反対されても伝道続けられるように、どんなことを教えましたか。

12 イエスは弟子たちに、いつもエホバに頼ることの大切さを教えました。たとえ迫害に遭ってもエホバが必ず支えてくれる、ということを何度も話しました。(マタ 10:18-20 そして、あなたたちは私のために総督や王の前に連れていかれます。その人たちと異国の人々に証言するためです。19 しかし、引き渡されるとき、何をどう話そうかと心配してはなりません。話すべきことはその時に与えられるからです。20 単にあなたたちが話すのではなく、天の父の聖なる力があなたたちによって話すのです。ルカ 12:11, 12 公の集会、また政府の役人や権威者の前に連れていかれるとき、どう弁明しようか、何を言おうかと心配してはなりません。12 言うべきことは聖なる力によってその時に教えられるからです。) また、用心深くあるようにとも勧めました。(マタ 10:16 さあ、私はあなたたちを遣わします。あなたたちはオオカミの間にいる羊のようになります。それで、蛇のように用心深く、しかもハトのように純真なことを示しなさい。ルカ 10:3 行きなさい。私はあなたたちを遣わします。あなたたちはオオカミの間にいる子羊のようになります。) 良い知らせを聞く気のない人に無理やり話す必要はない、と教えました。(ルカ 10:10, 11 しかし、どこでも町に入って人々が迎えてくれない所では、その大通りに出て、こう言いなさい。11 『この町で足に付いた土さえも、あなた方に向かって払い落とします。それでも、神の王国が近くに來たことを知っておきなさい』。) 迫害されるなら逃げるようにとも言いました。(マタ 10:23 ある町で迫害されるときには、別の町に逃げなさい。はっきり言いますが、人の子

が来るまでにあなたたちがイスラエルの町々を回り尽くすことは決してありません。) イエスはいつもエホバに頼っていましたし、みんなに伝えたいという意欲がありました⁵⁴が、あえて危険を冒すことはありませんでした。(ヨハ 11:53, 54 その場にいた人たちはその日以来、イエスを殺そうとして相談した。54 このため、イエスはもうユダヤ人の間を表立って歩くことはせず、荒野に近い地方のエフラ임という町に行き、弟子たちと共にそこにとどまった。)

13. エホバがあなたのことを必ず助けてくれる、といえるのはどうしてですか。

13 反対に遭っても熱い心で伝道を続けるには、エホバのサポートが必要です。(啓 12:17 それで竜は女に対して激怒し、彼女の子孫(d*種)のうちの残っている人たち、すなわち、神のおきてを守り、イエスについて証言する務めを与えられている人たちと戦うために去っていった。) エホバは必ず助けてくれます。そのことは、ヨハネ 17 章に書かれているイエスの祈りから分かります。イエスは使徒たちを見守ってくださるようエホバにお願いしました。エホバはその祈りを聞きました。「使徒の活動」には、迫害の中でも使徒たちがエホバから助けられて熱い心で伝道が続けたことが記録されています。イエスは、使徒たちの言葉に信仰を持つ人たちのことも見守ってくださるようお願いしました。その中にはあなたも含まれています。エホバは使徒たちを助けたように、あなたのことも必ず助けてくれます。(ヨハ 17:11 私は世からいなくなります。この人たちは世にいます。私はあなたのもとに向かいます。聖なる父よ、あなたは私にあなたのお名前を託してくださいました。そのお名前のためにこの人たちを見守ってください。私たちが一つであるように、彼らも一つになるためです、15 この人たちを世から取り去ることではなく、邪悪な者から守ってくださるようお願いします、20 私は、この人たちだけでなく、彼らの言葉によって私に信仰を持つ人々についてもお願いします。)

14. どんなことがあっても熱い心で伝道が続けられる、といえるのはどうしてですか。(写真も参照。)

14 終わりが近づくにつれて、良い知らせを熱い心で伝えることはますます難しくなっていくでしょう。それでも必要なサポートは全て与えられます。(ルカ 21:12-15 しかし、これら全てが起きる前に、人々はあなたたちを捕らえて迫害し、会堂や牢屋に引き渡し、あなたたちは私の名のために王や総督の前に連れていかれます。13 それは証言する機会となります。14 それで、どのように弁明するかを前もって練習しない、と心に決めなさい。15 私があなたたちに言葉と知恵を与えるからです。反対者は皆一緒になってもそれに抵抗も反論もできません。) イエスや弟子たちに倣い、私たちも良い知らせを聞くかどうかは相手の判断に任せ、不要な争いを避けます。エホバの証人の活動が制限されていても、兄弟たちは良い知らせを伝え続けることができます。自分の力ではなく、エホバに頼っているからです。エホバは1世紀のクリスチャンに力を与えたように、現代のクリスチャンにも力を与え、「伝道が十分に行われ」るようにします。(テモ二 4:17 しかし、主が私のそばに立って、力を与えてくださいました。私を通して伝道が十分に行われ、全ての国の人々が聞くようになるためです。私はライオンの口から救われました。) エホバに頼るなら、どんなことがあっても熱い心で伝道を続けることができます。



熱い心があれば、エホバの証人の活動が制限されていても伝道をやめない。（14 節を参照。）

*写真や挿絵: 兄弟がガソリンスタンドで男性に伝道している。

ポジティブな見方をする

15. イエスが伝道に対してポジティブな見方をしていたことはどんなことから分かりますか。

15 イエスが一生懸命良い知らせを伝えることができたのは、伝道に対してポジティブな見方をしていたからです。イエスは西暦 30 年の終わりが、良い知らせを聞きそうな人たちが大勢いるのに気付いて、その人たちを、すでに色づいて収穫できる畑に例えました。（ヨハ 4:35 あなたたちは、収穫までまだ 4 カ月あると言っていないませんか。しかし、目を上げて畑を見なさい。もう色づいて収穫できます。すでに、）その 1 年後には弟子たちに、「収穫は多いです」と言いました。

（マタ 9:37, 38 そこで弟子たちに言った。「収穫は多いですが、働き手は少ないのです。38 それで、収穫のために人を遣わしてくださるよう、収穫の主人にお願いしなさい。」）後にこうも言いました。「収穫は多いです……。それで、収穫のために人を遣わしてくださるよう、収穫の主人にお願いしなさい」。（ルカ 10:2 その際、こう言った。「収穫は多いですが、働き手は少ないのです。それで、収穫のために人を遣わしてくださるよう、収穫の主人にお願いしなさい。」）イエスは良い知らせを受け入れるようになる人たちが必ずいる、と考えていました。そして、実際に多くの人が受け入れた時に喜びました。（ルカ 10:21 まさにこの時、イエスは聖なる力により喜びにあふれて言った。「天地の主である父よ、あなたを大いに賛美します。あなたはこのようなことを賢い知識人たちから注意深く隠し、幼い子供たちに啓示されたからです。そうです、父よ、これはあなたのお考えに沿ったことです。」）

16. イエスの例えからどんなことが分かりますか。（ルカ 13:18-21）（写真も参照。）

16 イエスは弟子たちに、伝えるメッセージに対してポジティブな見方をするようにと教えました。そのような見方は熱い気持ちで伝道を続ける上で役立つからです。イエスが話した 2 つの例えについて考えてみてください。（ルカ 13:18-21 それでイエスは言った。「神の王国は何に似ているでしょうか。それを何になぞらえましょうか。19 それは、人が庭に植えたからしの種のようなものです。それは成長して木のようになり、鳥が枝に巣を作りました」。20 さらに言った。「神の王国を何になぞらえましょうか。21 それはパン種のようなです。女性がそれを取って麦粉 3 杯分と混ぜると、やがて全体が発酵しました」。を読む。）「1 つは①からしの種の例えで、王国のメッセージがとどまることなく大きく広がっていくことを教えました。もう 1 つは②パン種の例え

で、王国のメッセージが広範囲に広がり、最初のうちは目に見える変化がなくても、やがて大きな変化を生じさせることを教えました。」イエスの弟子たちが王国のメッセージを伝えるなら素晴らしい結果になる、ということです。



私たちもイエスのように、良い知らせを受け入れる人が必ずいるというポジティブな見方をしているだろうか。（16節参照。）
（そうした積極的な見方は表情にも反映されて、直ぐでなくてもその表情に引き寄せられる人々もいるかも）

17. どんなことについて考えると、伝道についてポジティブな見方ができますか。

17 今、伝道でどれほどのことが成し遂げられているかを考えると、熱い心で伝道続ける力が湧いてきます。毎年、関心を持つ何百万人もの人が記念式に出席し、聖書レッスンをしています。そして何十万人もの人がバプテスマを受け、伝道するようになっています。私たちはあとどれくらいの方が良い知らせを受け入れるかは知りませんが、エホバが大患難を生き残る大群衆を集め続けていることは知っています。（啓7:9その後、私が見ると、全ての国や民族や種族や言語の人々の中から来た、誰も数え切れない大群衆が、王座と子羊の前に立っていた。その人たちは白くて長い衣服を着て、ヤシの枝を持っていた、14それで私がすぐその長老に、「それはあなたが知っておられます」と言うと、彼は私に言った。「これは大患難から出てくる人たちです。この人たちは、自分の長い衣服を子羊の血で洗って白くしました。）」収穫の主人エホバは今も畑が色づいている、つまり良い知らせを聞く人たちがまだまだいると考えています。であれば、これからも熱い心で伝道が続けたいと思うのではないのでしょうか。

18. 私たちが熱い心で伝道するなら、それを見る人たちはどんなことに気付くはずですか。

18 イエスの弟子たちは意欲的に伝道することで知られてきました。使徒たちが大胆に話すのを見た人たちは、彼らが「イエスと一緒にいたことに気付くように」になりました。（使徒4:13支配者と長老たちは、ペテロとヨハネの大胆な話し方を見た時、2人が教育のない普通の人であることを知って、非常に驚いた。そして、2人がイエスと一緒にいたことに気付くようになった。）熱い気持ちで伝道するなら、それを見る人たちは私たちがイエスに倣う本当のクリスチャンであることに気付くでしょう。

熱い気持ちで伝道したイエスにどのように倣えますか

1. エホバの願いや預言について考える

・S05-06 イエスは伝道が神が願っている仕事だと分かっている一番大切に、多くの弟子たちが伝道できるようにトレーニングもした。私たちもエホバが何よりも伝道を大切にしたいと願っていることを考えると、ベストを尽くしたいという気持ちになる。

・S08-09 イエスは聖書の預言が必ず実現することを知っていて例えば、伝道できる期間は3年半しかないと分かっていたので、エホバから与えられた仕事をやり遂げるため、残されている時間を大切に、一生懸命伝道した。私たちも残っている時間が少ないことを考えると、もっと頑張って伝道したいという気持ちになる。

2. エホバに頼る

・S11-12 イエスは伝道したため宗教指導者たちから何度も殺されそうになっても伝道が続けたのは、エホバと一緒にいてくれることを知っていたから。それで、いつもエホバに頼ることの大切さを教え、たとえ迫害に遭ってもエホバが必ず支えてくれるということを何度も話した。一方であえて危険を冒すことはなかった。

・S14 私たちも良い知らせを聞くかどうかは相手の判断に任せ、不要な争いを避ける。活動が制限されていても、自分の力ではなく、エホバに頼って、良い知らせを伝え続けることができる。

3. ポジティブな見方をする

・S15 イエスは西暦30年の終わりごろ、良い知らせを聞きそうな人たちが大勢いるのに気付いて、その人たちを、すでに色づいて収穫できる畑に例え、1年後には弟子たちに「収穫は多いです」と言われた。イエスは良い知らせを受け入れるようになる人たちが必ずいる、と考えていた。

・S16 イエスは弟子たちに2つの例え話（①からしの種と②パン種）から、伝えるメッセージに対してポジティブな見方をするようにと教えた。王国のメッセージはとどまることなく大きく広がっていき、最初のうちは目に見える変化がなくても、やがて大きな変化を生じさせることを教えた。

・S17 毎年関心を持つ何百万人もの人々が記念式に出席したり、伝道でどれほどのことが成し遂げられているかを考えると、熱い心で伝道を続ける力が湧いてくる。収穫の主人エホバは今も畑が色づいている、つまり良い知らせを聞く人たちがまだまだいると考えているので、これからも熱い心で伝道が続けたいと思う。

58 番の歌 平和を望む人を探す

△ 写真や挿絵: 兄弟がガソリンスタンドで男性に伝道している。

△ (ルカ 10:1) これらのことの後、主イエスはほかの70人を指名し、行こうとしている全ての町と場所へ、先に2人ずつ遣わした。